

進路だより

発行：平成27年9月3日

1 ～卒業生による進路だより～

引き続き、京大特集です。最後まで読んでいただければ光栄です。

◎道盛 裕太 (工学部工業化学科)

1. 志望理由

京大の特色ある自由の校風こそが、私を惹きつけた最たる魅力でした。附属ののびやかな環境において貴重な経験を多くさせていただいた私にとり、望むだけ学びを深められる自由が進路選択の第一条件だったのです。

2. 大学生活4ヵ月を終えて

様々な環境から集まってきた仲間との交流や、なかなか普段目にするのでできない実験の数々は、附属の生活とは全く違った経験です。逆に、附属での学びの価値を改めて強く感じる場面も多くあります。例えば「物理学実験」という科目では授業の度に10ページ程のレポート課題がありますが、KPでの論文執筆をはじめ附属の活動で培った「まとめる力」を駆使することで、全国から集まった優秀な仲間にも負けないようなレポートを書くことができます。

3. Pick Up Topic I ～ポケットゼミ、生物学のフロンティア～

京都大学といえば、なんだか不思議な学生がたくさん集まってくるところ。もちろん、授業だってとっても変わっています。今回は、その中のほんの一部だけですがピックアップ！

1回生だけが受講できる特別科目「ポケット・ゼミ」は学部・学科に縛られず、好きなテーマのゼミ(研究室)にお邪魔して最先端の研究を目の当たりにする、夢のような授業。私の受講している「生命を操る時代」というゼミでは、世界で初めてクローン羊を生んだ研究者の友人である教授が、クローン羊ドリー誕生秘話や当時の時代背景から、最先端のクローン技術に至るまで、実際の体外受精実験やインドネシアのお菓子、淹れたてのコーヒーなどを交えながら愉快に解説して下さいます。夏には附属牧場にてバーベキュー大会を開催予定なので、今から楽しみで仕方ありません！

今年始まった新科目「生物学のフロンティア」も衝撃の面白さです。日本で最初にES細胞を研究された教授に、プラナリアを使った発生再生学研究の第一人者、さらには有名な京大霊長学研究が専門の京都大学総長やノーベル賞受賞者の山中教授など、まさに世界の生物学界を牽引する豪華教授陣が目の前で熱い講義を繰り広げる、わくわくのとまらない素敵な授業です。

3. Pick Up Topic II ～iGEM Kyoto～

京都大学らしさの詰まった、文化系サークル『iGEM Kyoto』をピックアップ。

私の所属する『iGEM Kyoto』というサークルは、毎年アメリカのボストンで開催される合成生物学の学

生大会『iGEM』に参加する、学生主体の研究サークルです。合成生物学、とはあまり聞きなじみのない言葉ですが、簡単に言えば磁石にくっつく生物や、雨を降らせる生物など「今までになかった生物を創り出す」学問のことです。基本的には、大腸菌の遺伝子組み換えによって様々な機能を持った大腸菌にパワーアップさせ、その意外性やお役立ち度などで競います。

京大チームは昨年、世界大会にて金賞を受賞しており、レベルの高い研究がなされています。現在は来年度の大会出場に向け研究を進めているところです。学生は農学部、理学部、工学部、医学部、教育学部、総合人間学部など幅広い専門分野のメンバーが集まっており、サークル内での相互学習環境も非常に充実したものとなっています。また日本の他の大学にもチームがあり、他大学チーム間での研究交流も非常に貴重な体験です。国際大会出場に向けて、英語の論文を読んで実験したり、英語でポスター製作をしたり、さらには英語でプレゼンテーションする練習をしたりと、国際的な研究者として必要となるスキルも身につくようになっていきます。研究に打ち込みたい、国際大会での発表など貴重な体験に興味がある、という方は、是非とも『iGEM Kyoto』にお越しください！

◎須田 克志 (工学部工業化学科)

1. 志望理由

僕は当時、特に確固たる夢を持っていたわけではなく、大学に入っているいろいろな経験をできたらなと思っていました。だから、決して最初から大学に対して強いこだわりを持っていたわけではありません。そこで高2の夏、偶然京大アメフト部ギャングスターズの練習を見学する機会に恵まれました。そのときぼんやりとですが、本気で仲間とぶつかりあっている先輩方を見て、この部活で四年間を費やす自分の姿を見ることができました。そして学力的にはかなり厳しかったものの、京大を目指すことを決めました。

2. 大学生活4ヵ月を終えて

これまでの4ヵ月間非常に充実した楽しい時間でした。1日の過ごし方も高校生のころとは全く異なっています。特に僕にとっての一番の変化は一人暮らしです。毎日、自分で家事もこなさなければなりません。少しずつ慣れてはきましたが、まだまだ失敗することはたくさんあります。ただ、ここでの経験はどれも将来に生きるいい経験だととらえています。

3. Pick Up Topic ~アメリカンフットボール部~

僕が京大に入学するきっかけをつくってくれたギャングスターズについて紹介します。京大ギャングスターズは1947年に創部し、現在までに学生日本一に6回、社会人チームを倒して全日本王者に4回輝いたチームです。スポーツ推薦などない最難関大学の一つでありながら、スポーツで日本一を目指しています。しかし近年日本一どころか、昨年には創部以来初の入れ替え戦に出場することとなり、どん底といってもいい時期を迎えています。ただその中でも先の見えない日本一への道を模索し続けているチームです。僕はそこに魅力を感じました。しばしば、「アメフトで日本一を目指したいなら関学や立命でいいじゃないか」と言われることがあります。しかし僕は決して有利であったり、人材に恵まれていたりするわけではない。ギャングスターズが本当の強さとは何か、どうすれば勝てるのか必死で悩み抜きながら下剋上を起こすその未来に賭けたいと思いました。もしもこれを読んで4年間を本気でギャングスターズに賭けてもいいと少しでも思った人はぜひ一度考えてみてほしい。気楽で楽しい道はいくらでもある大学生活を、最後の青春ともいえる大学生活を、本気の仲間とともに、本気で日本一を目指すことに賭ける自分の姿を想像してみてください。